

第 2 次ちば文化振興計画（平成 28 年度～令和 2 年度）について
令和 3 年度の主な取り組み（県・市町村・文化施設）

I 「第 2 次ちば文化振興計画」全体の指標

指標	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
この 1 年間に文化芸術にふれた県民の割合※ （目標値 70.0%）	63.4%	59.1%	59.9%	67.4%	69.5%	71.8%

※県政世論調査の結果による。

II 「施策の柱」ごとの達成状況

1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり
～あらゆる人々が文化芸術を享受するために～

指標	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
文化会館・美術館・博物館の入館者数 （増加を目指す）	3,449,748 人	4,048,532 人	4,266,706 人	3,360,688 人	1,823,134 人	2,387,240 人

県の主な取組

- 「千葉・県民芸術祭」
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により一部行事を中止としたが、関係団体・市町村などと連携し、感染症対策を徹底した上で、24事業を実施した。
- 「さわやかちば県民プラザ事業」
 - ・音楽ワークショップやクリスマスコンサートを実施し、県民による自主的な文化芸術活動への参加の機会を提供した。
- 「県民芸術劇場公演」
 - ・県内で25公演を行い、県民に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供した。
- 「県立美術館・博物館事業」
 - ・千葉県の歴史・美術・自然に関する展覧会を行い、文化芸術にふれ親しめる環境をつくった。
- 「特別支援学校巡回コンサート」
 - ・特別支援学校にプロのオーケストラを派遣するは、10校で実施し、コンサート会場に行くのが困難な児童・生徒に優れた音楽鑑賞の機会を提供した。
- 「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）事業」
 - ・障害のある人や障害福祉サービス事業所等の芸術文化活動を支援するセンターを設置し、人材育成研修や展覧会等を行うことで、障害のある人の自立と社会参加の促進を図った。

市町村の主な取組

○障害のある方が文化芸術にふれる機会を創出することを主な目的とした事業については、新型コロナウイルス感染症対策を行い実施された事業もあったが、多くの事業が中止、延期された。

○千葉市：チバリアフリーアートプロジェクト

文化的なアプローチから共生社会の実現を目指すため、ファッションやダンスパフォーマンスを通じて、健常者と障害者が一緒になって楽しむことができるイベントを実施した。

○東金市：障がい者作品展

東金市に居住または、施設へ入所中で東金市のサービスを受けている障がい者の方の作品を公開展示し、地域住民の障がいに対する理解の促進を図るとともに、併せて障がい者の社会活動への参加を促進することを目的とした事業を実施した。

○外国人の方が本県の文化芸術にふれる機会を創出すること、又は国際交流を主な目的とした事業については、新型コロナウイルスにより多数の事業が中止、延期された。

○子ども・若者が文化芸術にふれる機会を創出することを主な目的とした事業については、感染症対策を行い実施された事業もあったが、多数の事業が中止された。

○市川市：市川市伝統芸能顕彰事業 落語体験ワークショップ

二ツ目、真打の噺家を講師に、小中学生を対象としたワークショップを実施した。プログラムは、扇子や手ぬぐいを使った落語ならではの仕草の体験、講師によるトークショー、落語公演である。

○君津市：音楽鑑賞教室 市内小中学校において、児童・生徒を対象とした邦楽・吹奏楽・交響楽の鑑賞会を実施した。

文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組

○文化施設においても、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、各種事業が実施された。

○子ども・若者が文化芸術にふれる機会を創出することを主な目的とした事業

○千葉県文化会館、青葉の森公園芸術文化ホール：めざせ！文化芸術マスター

・県内の大学との協同による多種多様な文化芸術事業の制作、文化芸術に興味を持つ学生の「インターシップ」という形での劇場運営の現場体験等を実施した。

○千葉県立美術館：小中学校への学習キットの貸出、高等学校とのミュージアムコンサートの実施、高等学校への美術館講座の開講、博物館実習等

○佐倉市民音楽ホール：「親子でクリスマス・コンサート」0才児から入場可能なクラシックコンサートを開催した。

2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり
～あらゆる地域で地域文化が息づくために～

指標	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和2年度	令和3年度
県立文化会館・美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数 (増加を目指す)	約4,473人	6,001人	7,374人	7,862人	1,327人	2,931人
県の主な取組						
<p>○「文化財保存整備助成事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財「法華経寺祖師堂」や指定有形文化財「三菱銀行佐原支店旧本館」など、計21件の国指定・県指定文化財に助成することにより、無形民俗文化財の保存と継承に資することができた。 <p>○「ふれあい体験事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校(26校)へ能楽や雅楽、三曲の実演家を派遣し、体験を通しながら伝統文化を学ぶ機会を提供した。 <p>○「千葉県フィルムコミッション運営事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化資源の情報をホームページで掲載し、映画等のロケーション誘致により地域の知名度向上や観客の誘致等を図った。旧堀田邸や屏風ヶ浦等の文化財での撮影を含め、約100件の撮影が行われた。 						
市町村の主な取組						
<p>○新型コロナウイルスの影響により、多くの事業が中止となった。</p> <p>○千葉市：文化財保護事業 千葉市内における無形民俗文化財(郷土芸能：お囃子、神楽)を継承するために保持団体が実施する伝承活動や用具補修、記録作成事業に対して補助金を交付した。</p> <p>○芝山町：新春寄席 臨場感のある生の「笑い」を味わっていただくため、また伝統芸能についての関心と理解を深めるきっかけ作りのため開催した。</p> <p>○南房総市：南房総市生涯学習芸術鑑賞会 市内の中学校生徒が優れた芸術(狂言)に出会うことにより、楽しさや素晴らしさを知る機会を充実するとともに、豊かな心と感性を育むことを目的として実施した。</p>						
文化施設(音楽堂・美術館・博物館等)の主な取組						
<p>○青葉の森公園芸術文化ホール：創作狂言 里見八犬伝最終章</p> <p>○千葉県立房総のむら：屋外展示「千葉の民俗芸能」 県内各地に伝えられ、現在でも行われている民俗芸能に焦点を当て、その民俗芸能のあり方をパネルや実物資料で紹介した。</p>						

3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出
 ～多様な「ちば文化」の魅力を引き出し、発信するために～

指標	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和2年度	令和3年度
「ちば文化交流 ボックス」へのア クセス件数 (増加を目指 す)	579,268件	514,130件	731,532人	796,000人	649,000人	546,749人
県の主な取組						
<p>○「県民の日中央行事」(ワクワクフェスタ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月15日の県民の日を中心に、千葉県民としての意識を醸成し、県民が千葉県に対する愛着や誇りを一層感じられるよう、県全体の魅力を網羅したイベントを開催した。 令和3年度はオンライン開催に変更して実施した結果、多くの人が参加できたものの、市町村による物販や体験を設けることができなかった。 <p>○「ちば文化資産」PR事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちば文化資産」に関連するお祭りのフォトコンテストの実施や観光部局と連携したフォトキャンペーン、SNSを積極的に活用したPRにより、ちばの文化的魅力を発信することができた。 <p>○「若者の文化芸術活動育成支援事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が主体となり参加、実施する発表・公開事業、参加体験事業を対象として、5団体に補助金を交付した。 						
市町村の主な取組						
<p>○千葉市：千の葉の芸術祭 市制100周年を迎えたことを契機に、千葉市の資源や魅力ある文化力を内外に広く発信するため、新たな文化プログラムとして、初めて行った芸術祭。写真表現に触れることを通して私たちの世界を捉えなおす「写真芸術展」、感じながら考え、創造することについて学ぶ場「体験・創造ワークショップ」、伝統とその革新に挑戦的に取り組む「伝統文化と新しい文化の発信」の3部門で構成した。</p> <p>○松戸市：科学、芸術、自然をつなぐ国際フェスティバル「科学と芸術の丘2022」 「Open City～触発する街～」をテーマに、会場の戸定が丘を舞台に、世界で活躍し、時代を切り開く研究機関や研究者、アーティストたちによる基調講演やトーク、特別展覧会、ワークショップを開催した。</p>						
文化施設(音楽堂・美術館・博物館等)の主な取組						
<p>○千葉県東総文化会館：北総四都市文化紀行 ちば魅力発見コンサート in 東総 ～北総の文化をつなぐ～</p> <p>○千葉経済大学地域経済博物館：令和3年度特別展「房総と海—海とともに歩んだ房総の人びと—」</p>						

4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築

～「ちば文化」を支えるひとを育て、つなぐために～

指標	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和2年度	令和3年度
地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合 (50.0%)	30.2%	30.6%	45.0%	49.2%	24.6%	16.7%
県の主な取組						
<p>○「公立文化施設担当者研修会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県と市町村、文化施設の運営者等を対象とする研修会を実施し、「地震等災害時の文化施設における業務継続計画、施設のリスクマネジメント」をテーマに、文化施設の管理運営に係る情報を提供した。 <p>○「文化活動ボランティアネットワーク事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化情報ポータルサイト「ちば文化交流ボックス」内に「文化活動ボランティアネットワーク」のページを設け、文化活動を通してのボランティアを企画している者と、ボランティア活動の受け入れを希望する者とを結びつける手伝いを行った。令和3年度は登録件数が58件となり、16件の依頼があった。 <p>○「名義後援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の文化団体の文化芸術活動を活性化させるため、公演や展覧会等の行事に対し、知事の名義により延べ89件の名義後援を行った。 						
文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組						
○地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した。						

5 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上
～更なる発展に向けて～

指標	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度	令和 2 年度
千葉県での「公認文化オリンピック アード」に参加したアーティスト の人数（累計）	380 人	18,525 人	36341 人	53,600 人	54,302 人
県の主な取組					
<p>○東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成のため、公認文化オリンピックアードに認証された事業として、「千葉・県民音楽祭（県民参加型コンサート）」、「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』PR事業」及び「ちばアート祭」を実施した。</p> <p>○「千葉・県民音楽祭」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募したアマチュア演奏家や地域で活動する団体、千葉交響楽団などのプロアーティストが共演した。また、オーケストラ演奏、合唱、ダンス、音楽活動を行う障害のある方々によるステージのほか、プロのアーティストによるステージなど、多様な音楽を披露した。 <p>○「ちばアート祭」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちば文化資産」をテーマとした絵画や写真作品を公募した。また、公募作品の展覧会や屋外アート作品展及びチームラボ作品展、ワークショップを実施し、子どもから大人まで様々な方にアートやちば文化に触れる機会を提供することができた。 <p>○beyond2020 プログラムの申請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの機運を醸成するため、beyond2020（※）プログラムの認証主体となり57件の認証を行った。 <p>※ 2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、共生社会や国際化に繋がるレガシー創出に資する取組を認証し、ロゴマークを付与することで、オールジャパンで統一感を持って日本全国へ展開していく文化プログラムの取組。</p>					